

コ エ ル

中部圏 4年制大学 初 声優アクティング コース 誕生



Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG
子どもが好きだからできる仕事
黒田真由

NUA-Student
作品を作っていけたら、それが一番なんですけど
伊藤みのり

News/Topics

ニュース&トピックス

【大学からのお知らせ】
アートをもっと身近に
テラッセ納屋橋に「地域交流センター」を開設
誰でもが気軽に触れられるアート
「ブロックアート教室」を開講

【国際交流活動】
2017年度前期
交換留学生作品展が行われました

音楽領域
■ マルチェッラ・レアレ先生の
声楽公開講座が行われました

人間発達学部・芸術教養領域
■ 人間発達学部子ども発達学科と
芸術学部芸術教養領域の
オープンキャンパスが行われました

美術領域・デザイン領域
■ 清須市立図書館×
キリンビール名古屋工場×名古屋芸術大学
官民学のコラボレーション
「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」が
開設されました

■ デザイン領域特別客員教授
木村徹氏によるワークショップ「IDOU」&
公開講座「クルマは変わる」を開催しました

名古屋芸大グループ校特集
■ 名古屋音楽学校

コラム NUA
翻訳雑感
デザイン領域教授 橋本裕明

Master & Artist

マスター&アーティスト
生き方、描き方
大学院美術研究科 美術専攻
美術領域 日本画コース教授 市野鷹生

Information

インフォメーション
■ 「みんなが芸大生になる日 一日芸大生」を
開催しました
■ 2017年度オープンキャンパス日程
■ 2017年度音楽領域演奏会スケジュール(予定)
■ アート&デザインセンター
2017年度展覧会スケジュール(予定)



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>



Feature
中部圏4年制大学初

コエール

誕生
声優アクティングコース



本学では、2018年度から音楽領域に新たなコース、「声優アクティングコース」を設置します。アニメーションは、現代の日本を代表するコンテンツとして成熟し、海外からも高く評価されています。また、近年ではコミックやアニメーションを原作にした舞台「2.5次元ミュージカル」が大きな人気を博しています。アニメーションの声を担当する声優が、舞台でも同じキャラクターを演じ、声優の可能性が大きく広がっています。「声優アクティングコース」では、声優はもちろん、アニメソング歌手、さらに、2.5次元ミュージカルなど舞台に立つことのできる声優を育成します。今回の特集では、この新しい「声優アクティングコース」をご紹介します。



声優としての演技力、 そして声優が舞台に立つための 表現力を身につけます。

声優アクティングコースでは、声優そしてアニソン歌手として必要な基礎的訓練、発声や滑舌、歌唱レッスン、身体トレーニングを学び、同時に現役のアニメ音響監督による演技レッスンを行います。そして本学のスタジオにて、アニメや外画のアフレコレッスン、ナレーションレッスンも定期的に行い、即戦力となる声優を育てます。

さらに“舞台に立つ”ためのカリキュラムも加わります。ジャズや

ヒップホップのダンスレッスン、またポピュラー音楽やミュージカルナンバーの歌唱レッスン、そして「2.5次元ミュージカル」には欠かせないアクションのレッスンも行い、「2.5次元ミュージカル」の創作や公演を経験することも合わせて学べるコースです。

■将来の就職分野

- 声優
- アニソン歌手
- CMナレーション
- 司会業
- ミュージカル俳優
- ラジオDJ
- ナレーター
- タレント

01 エンターテインメント業界で 役立つスキルが幅広く学べる。

他コースとの連携で現代の声優業界のボーダレス化に対応できる視野の広い人材を育成します。

03 一般教養も学び、社会で生きる コミュニケーション能力が身につく。

選ばれる声優になるために、コミュニケーションはもっとも重要です。専門性だけでなく一般教養も充実しています。

02 充実した機材・録音、 トレーニング環境を整備。

音楽領域の環境をそのまま活用してレッスンを行います。



レコーディングスタジオコントロールルーム



ミュージカルスタジオ

04 指導者は声優業界の第一線で活躍する現役音響監督・声優



教授
平光琢也

岐阜県出身。日本大学芸術学部演劇学科卒業。1979年、演劇集団円劇団員に昇格、俳優としての活動始める。1983年コメディグループ「怪物ランド」としてデビュー。1994年ミュージカル「美少女戦士セーラームーン」で舞台演出家としての活動を始め今までに約30本の舞台演出を手掛ける。1998年より、アニメの音響監督の活動を開始、「テニスの王子様」「ヘタリア」「図書館戦争」「お願いマイメロディ」など、約40本の番組を手掛ける。尾木プロTHE NEXT、演劇集団円演出部所属。一般社団法人日本演出者協会会員。一般社団法人日本2.5次元ミュージカル協会個人会員。名古屋芸術大学 教授。



特別客員教授
郷田ほづみ

東京都出身。玉川大学文学部芸術学科演劇学専攻卒業。1982年に声優としてデビュー。1983年から、コメディグループ「怪物ランド」のメンバーとして活躍する一方、声優業では「装甲騎兵ボトムズ」の主人公キリコ・キュービー役で好評を得る。「HUNTER×HUNTER」レオリオ、「テニスの王子様」井上守など、数々のアニメ作品に出演。洋画、海外ドラマの吹き替えでは、サイモン・ベイカー、ロバート・ダウニー・Jrの声を担当する。近年では、「ひぐらしのなく頃に」や「めらりひよんの孫」などの、アニメの音響監督としても活躍。自ら立ち上げた「湘南テアトロ★デラテ」での舞台公演では、舞台演出も務める。



非常勤講師
まほろば遊

元宝塚歌劇団 月組 男役(野田秀樹氏 命名) シンガーソングライター/ラジオパーソナリティ/ボカール講師/朗読講師 作詞・作曲から歌唱、構成、演出、企画など自身でプロデュースする。これまでに3枚のCDをリリース、ライブ、コンサートを企画&主催。ジャズ、ポップス、キッズ、映画音楽、ミュージカル曲など幅広く歌えるボカリストとして活躍。ほかに、学校トーク&ライブ、病院・老人ホーム慰問ライブ、白血病・難病支援の活動を音楽でサポート、東日本大震災復興支援ライブなど社会貢献活動にも力を注いでいる。ラジオパーソナリティとして「音楽と朗読」を中心とした番組で活躍中。



7月22日(土)に行われた説明会、アフレコ体験会には、多くの高校生が参加しました。2号館中アンサンブル室での説明会では、音楽領域主任の依田嘉明教授が、大学に声優養成のコースが設置されることは中部地区で初めてであり本学にとっても非常に大きな意義があること、声を仕事とする職業の将来性について、説明しました。

担当の平光琢也教授からは具体的なコースの説明があり、アニメーションで声を当てている声優がそのまま舞台上で演じる2.5次元の舞台を例に、舞台上立つことのできる声優が必要とされており、そのことを前提に本学の声優アクティングコースのカリキュラムが組み立てられていると説明しました。

ボイストレーニング、歌、発声などを担当する、元タカラジェンヌのまほろば遊氏は、リトルマーメイドから「パート・オブ・ユア・ワールド」(Part of Your World) を披露。歌声に会場の空気は一変、うっとり聞き惚れました。

説明会の後は、1階のスタジオでアフレコ体験会となりました。予定よりも多くの参加者が訪れたため、全員が参加できるように大幅に時間を延長して行われました。本学学生が制作したアニメーションに合わせて3名ずつ、順番に参加しました。コントロールルームからは平光教授が、実際のアニメ制作現場そのままに指示が出されます。5分ほどの映像ですが、毎回、テストを行い、その後、本番という流れでアフレコは進みました。実際の現場でのマナーに始まり、台詞の読み方、強弱、アクセントなど丁寧に指示し、本番さながらの体験会となりました。



非常勤講師就任予定 まほろば遊氏によるリトルマーメイド「パート・オブ・ユア・ワールド」(Part of Your World)



レコーディングスタジオでのアフレコ体験会。現役の音響監督である平光教授の指示でスタート



アニメーションはデザイン領域の学生によるもの。台詞の読み方やアクセントなどを丁寧に指示し、本番さながらの雰囲気



普段からアフレコの練習をしていると思われる高校生も多く、平光教授も感心した様子でした



依田嘉明 | 音楽領域主任
教授



音楽領域主任補佐 伊藤(杉田)孝子准教授(左)、教務学生主任長江和哉准教授(右)。声優アクティングコースで学ぶことのできる発声や演じることは、人とのコミュニケーションに大いに役立つ技術。実際に、まほろば遊氏が行っている発声の講習は、一般企業の方も数多く受講するとのこと。声の仕事だけに限らず、社会で役立つスキルが習得できる



声優以外の部分も総合的に学ぶ

声優について学ぶことのできるコースというものは、数年前からありました。私自身、本校の説明会や高校などに赴いたとき、そういったコースがないのかと聞かれることがしばしばありました。入試においても、音楽総合コースの面接で、本当は声優になりたい、という学生の声を聞くこともありました。そうしたニーズを受けて、社会の需要に後押しされる形ではありますが、設置されるのが「声優アクティングコース」です。設置に向け、実質的に動き始めたのが今年度になってからなので、このように皆さんに発表できる形に漕ぎつけることができ、なんとかここまで来ることができ

たと一安心しています。

声優になる、という専門学校を考えると学生もたくさんいるのではないかと思います。専門学校の場合、おそらく一つの専門性については実践的に訓練することができます。特化した部分においては、本学でも同じようなことになるかと思いますが、本学の場合、声優という専門以外についても、学んだり、体験することができます。これが、大きな違いです。例えば、実際に声を当てる体験授業を行いました。そこで使われているアニメーション、これはデザイン領域の学生が制作したものです。また、劇中で使われている音楽ですが、作曲、演奏、録音もすべて本学の学生によって作ることができます。近年では声優といっても仕事の幅が広がり、舞台に立つことが多く求められています。そうした場合、ミュージカルや演劇のレッスンを受けられることは、大いに役立つこととなります。ミュージカル公演を、ミュー

ジカルコース、弦管打コース、エンターテインメントディレクション&アートマネジメントコースといった、他のコースの学生たちと共同して作っていくことができます。声優以外のことも含めてできるということが、非常に大きな糧となるのではないかと考えています。音楽領域だけでなく、美術領域、デザイン領域、芸術教養領域、人間発達学部の学生にもアニメーション好きな学生はたくさんいます。アニメーションや舞台を作ることで、さらに横のつながりが密になり核融合のようなことが起こるので、はと、大きな可能性を感じています。



アフレコ体験で使われたアニメーションは、本学デザイン領域の学生の手によるもの。今後、サウンドメディアや演奏、ミュージカル、美術、リベラルアーツなど、さまざまな領域との連携が期待される

平光琢也 | 声優アクティングコース教授



日本のアニメ、コミックは世界に胸を張っていけるもの

オープンキャンパスで、3時間にも及ぶ本番さながらのアフレコ体験講座を終えたばかりの、平光教授にお話を伺いました。

-多くの高校生が実習に参加してくれました。あれほど長くアフレコ体験を行うとは思ってもみませんでした。

やっぱり一人ずつにちゃんとやってあげないといけないですからね。テストをやって、本番をやってという、まさに現場そのままのやり方です。参加しているのが高校生かプロの声優かの違いだけで、慣れているかないかの差だけです。僕の方も全くいつもと同じやり方でやっています。

皆、楽しそうにやってくれましたね。良かったです。

-声を当てていたアニメーション、学生の作品なんですね！

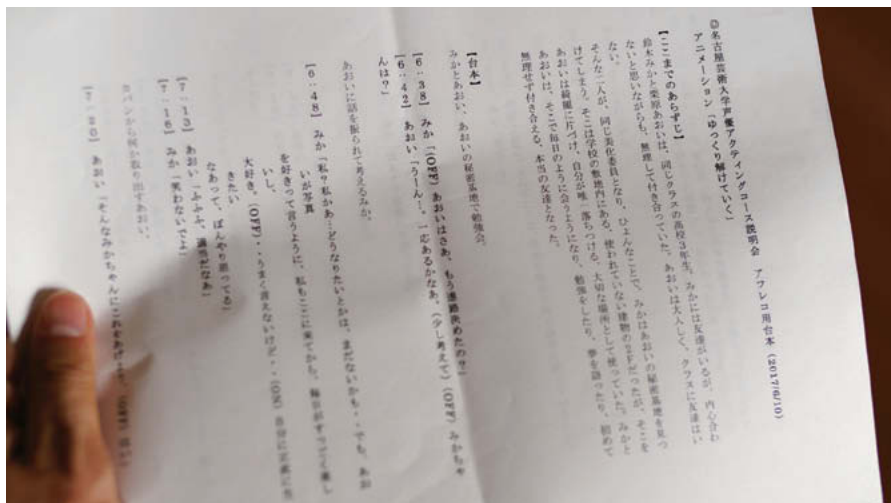
普通は、こういうときに使うものといえば、何か探してこなければいけないわけですが、結構、手間がかかって、なかなか手に入らないものなんです。それで、DVDなどリリースされているもので許可を取ってやるものなんですけど、それを美術領域やデザイン領域の学生が作ってくれる。今日は一部分ですが、本編が30分あり、なかなかいいストーリーになっていて感心しました。

-依田先生に伺ったら、西キャンパスでも声優アクティングコースができることを気にしている学生がいると聞きました。

何をやりたい？ 声もやりたいんですか？ 今は、本当にそうなんです。若手の、バンドで音楽をやっている人達が、声もやりたいといっています。ジャンルがクロスしてきていますよね。僕が、この大学で教えることになったときも、学長から縦割りではなく横のつながりをなんとかして欲しいと、いわれています。

2.5次元の舞台を考えていますが、ミュージカルを生バンドでやれる。音楽領域の学生と共同で実現できる。そんな豪華

なミュージカル、なかなかできるものじゃないですよ。声優の方でいえば、美術領域の学生がアニメーションも作ってくれる。そして、2.5次元ミュージカルで最近流行っているのが朗読ミュージカル。俳優が台本を持って朗読するんですけど、そこに生バンドがいて、なおかつ、パフォーマンスで大きいキャンバスに絵を描いて、なんていうことができます。音楽、美術、デザインが一緒になって何かを作っていくことができる。考えただけでワクワクします。

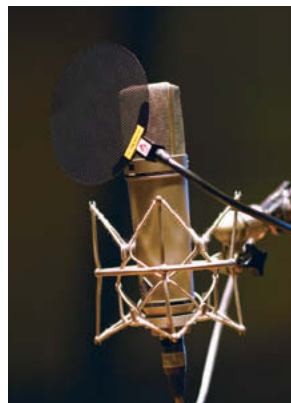


- ボーダレスの成果ですね。

実際のところ、僕がこの大学に来てまだ半年、つながるといってもピンとは来てないんですよ。例えば、音楽を作曲して欲しいなと思っても、誰に頼んでいいのかわからない。でもそれが上手くできるようになっていくと、全員で一緒に作ることができます。ほかの大学では、なかなかできないことですよ。とりあえず来年に向かって、まずは生バンドで一本2.5次元の朗読劇を作ろうと考えています。そしていずれは、まだ誰も手を付けていない原作を探して、ちゃんと著作権を押さえて、2.5次元のミュージカルをやりたいと思っています。しっかりとお金をいただけるクオリティのもの、興行として外に向けて発信できる内容とクオリティ、そうした2.5次元ミュージカルを実現させたいと思っています。

- 今回、高校生たちがアフレコ体験を行いました。また、今期、アクティングの講義などされているわけですが、学生の様子はいかがですか？

皆、上手いですね。家で、いろいろ練習してるんだと思います、TVの音を消して映像にセリフを当ててみたりしてね。今日は、まだレッスンといっても体験講座なので演技に対して指示していませんが、声優の基本はハートなので、そのことをしっかり伝えていきたいと思っています。口先だけでやってるとすぐわかつちやいます。口先だけで声を変えていくというのでは、胸を打つものにはなりません。最初は地声でやって、自分の中でいい声を作っていく、そういう基本的なことからやっていこうと考えています。



授業に関しては、思ったよりモチベーションがありますね。大学だからモチベーションが、うんとある人とそうでもないような人に分かれるのでは思っていました。専門学校にくらべてどうかかなと思っていましたが、皆、モチベーションが高いです。ただ、そんな学生達に対して、僕はアニメの音響監督と舞台演出の仕事が専門なので、それ以外の照明や音響、コンサート演出などを志望している生徒達もいる中、どう授業をしていけばいいか戸惑う事もあります。でも、そういう学生達にも、台本を渡して自分が演出家になったつもりで、どんな衣装でどんな装置でやるかを書いてきてという課題を出すと、1週間後に完璧にやってきてくれます。かなりしっかりした装置プランを作ってプレゼンできるようにしてきてくれて、とても感心しています。

こうしたこともあって、横のつながりの部分にしても、号令一下かけてしまえば、しっかりやれるんじゃないかなと、期待しています。

- 卒業後の進路についてはいかがでしょうか？

今、2.5次元の世界では、東京オリンピッ

クに向けて海外からもお客さんがたくさんやってくるので、そこを一番のピークにもっていこうという流れがあります。ブームといういつかは下がってしまいますから、あまりブームといたくないんですけども、海外からも大きく注目されています。そうした流れからすると、とりあえず4年後辺りはスタッフも足りなくなるだろうし、アニメ系、エンターテインメント系の人材が必要になるだろうと予想しています。これから大学に入る人、現在大学の学生たち、卒業後は東京に来れば仕事があるよと説明しています。それ以降については、まだ見えているわけではありませんが、優秀な人たちがアニメ界に集まっています。僕が若い頃は、インテリや才能ある人たちは演劇界に集まっていました。今は、アニメです。内容の深さ、テーマがあって、哲学や宗教的なものもアニメやコミックの脚本に入っています。日本のアニメ、コミックは、世界に胸を張っていけるものだと思います。そうしたものを支えていくこと、名古屋芸術大学がエンターテインメント界に対してこういうことをやっているんだと、しっかりアピールしていかなければならないと考えています。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



手作りのペーパーサートなど、イラストも可愛く見事なできばえ。もっと音楽や美術と係われれば良かったと反省。「引き出しをもっと増やしておけば良かったです」

子どもが好きだからできる仕事



午前中の保育園にお邪魔した。本学に隣接するクリエ幼稚園をはじめ、しばしば小さな子どもたちがいる場所へ赴くが、大抵、大人の男性は子どもたちから怖がられてしまうものである。普段は、まるで野生動物を観察するときのようにして警戒心を抱かせないようにしながら徐々に距離を詰め、やっと接することができるところまで近づくのだが、ここでは様子が違った。子どもたちは人見知りすることもなく、カメラにも興味津々で、ドンドン迫ってくる。無邪気で天真爛漫。子どもたちがいきいきと、じつに子どもらしくしているのではないか。その子どもたちの輪の中にいるのが黒田さん。現在、2歳児のクラスを担当している。子どもたちは、抱きかかえられたり、もたれかかったり、髪の毛をイタズラしたりと、ごく自然に甘えている。そんな子どもたちの仕草を楽しむかのような笑顔が見える。「今日はこれでも、ちょっと大人しいですよ。知らない人が来て、ちょっと遠慮しているかもしれないです」人間発達学部を卒業したのが3月、お伺いしたのが9月のはじめ、働き初めてもうすぐ半年。やっと、仕事に慣れてきたところだ。「仕事もなんとなくわかってきて、自分がどうやって動けばいいのかといったこともわかってきたんですけど、まだ、早起きに身体が慣れないですね(笑)」

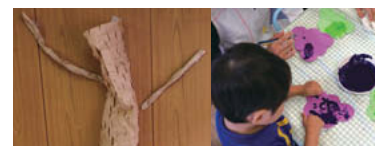
小学生になったころから保育園の先生になりたい、と考えていたというから一途だ。「保育士になるために、ピアノを習わせてもらったり、塾に行かせてもらったりしました。ずっと、保育士になるため、それに向かってしかやってきてないんです。夢が叶いました」ほかの分野に惹かれることもあったそうだが、ほとんどぶれずに道を進んだという。保育士が目標なら小学校の教員免許は取得しなかったのか聞いてみれば、3免(保育士、幼稚園教諭、小学校教諭)を取得したとのこと。「小学校へも実習に行きましたが、勉強を教えるというのは、自分がやりたいことは少し違うのかなと感じました。小さな子どもが好きということもありますが、遊んだり、一緒に生活する日常の中で子どもたちと触れあえることが好きなんだとよくわかりました。それで、小学校よりも保育園に決めました。迷いませんでした」子どもたちの中での自然な笑顔には、確固たる理由があったのだ。しかしながら、楽しいだけでは仕事にならない。学生時代の実習との違いを伺った。「まだ半年しか経ってませんが」と前置きした上で「実習の1週間、2週間では、わからないことがいろいろ見えてきます。可愛いだけじゃなく、大変な部分もあったりとか、い

Vol.83
NUA-OG
黒田真由

(くろだ まゆ)
保育士



1994年 愛知県生まれ
2017年 人間発達学部子ども発達学科卒業
名古屋市長官舎職員採用
名古屋市内の公立保育園に勤務



季節に合わせて葡萄をフィンガーペインティング。「今年は造形をテーマに、子どもたちがいろいろな素材に触れられるように考えてやっています」



ろんな面が見えてきます。もちろん、責任も出てきますし。実習のときは保護者の方とお話しすることはあまりありませんが、今では子どものことについてお話しすることがよくあります。家庭の状況を含めて知った上で、お話しさせていただきますが、やっぱり難しいなと思います。大変だなと思うこともあります。余計に、子どもが好きだからできる仕事なんだと実感しています」

後輩たちに向けて、学生時代にやっておけば良かったと思うことを聞けば「引き出しをもっと作っておけば良かった」と即答した。持ち回りで、保育内容を決めているそうなのだが、学生時代にそのアイデアを増やしておくことをアドバイスしてくれた。「引き出しは、もっともったあったほうが良いですね。絶対に損はしません。活動も、造形も、手遊びも、なんでも、作ったものは大事にしておいたほうが良いですね。エプロンシアターやパネルシアター、残しておけば、後々役に立ちますよ。私も実習のときに作ったものを残しておいて良かった!と思っています。なんでも活用しています」勤務に当たり、園長先生からいわれた言葉を教えてくれた。「『子どもを知ることから始まる』と教えていただきました。ですから、今年の1年は、子どもを知ること徹しようと思ってやっています。まず、知って、その上でいろいろ学んでいくものだ。子どもの気持ちになって寄り添うようにしていますが、今は、叱ることの難しさを感じています」子どもたちの様子からすれば、黒田さんとの間にしっかりと信頼関係ができあがっているように見受けられた。子ども、保育士、両方のはつらつとした笑顔がとても印象に残った。「こちらが、伝えようとしていることを感じとってくれる子もいます。言葉だけでなく、日々のスキンシップから通じ合うことができるようになっていくのだと感じています」子どもへの興味は、ますます強くなっているようだ。



Vol.84
NUA-Student
伊藤みのり

(いとうみのり)
アートクリエイターコース
コミュニケーションアート 3年

ーコミュニケーションアートはどんなコース？ どんなことやるの？

それぞれが好きなことをやっています。私は切り絵をやっているんですけど、立体をやっている人もいれば、絵を描いたり、版画をやったり、それぞれ違うことをやっていますね。個性が大切にされていて、自由度の高いコースだと思います。

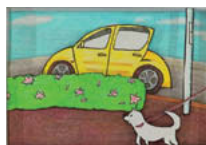
ー何をやってもいいぶん、一所懸命やらないとだね。

私は、美術系の高校出身でもなく、専門的なことは何もやっていませんでした。デッサンもあまり経験がなくて、でもそういう人も受け入れてくれるコースがアートクリエイターコースで、デッサンではなく作品を作ってくる入試もあります。オープンキャンパスのときに紹介していただいて、「何でもやっていい」と同ったし、ここなら行けるかなと思って、やってみようかなと決めました。入学してから、興味のあることをやっているうちに、今は切り絵を中心にやっています。



ー美大に行こうと思ったのはいつ頃なの？

ぎりぎりになってからですよ！ 高校3年になる頃、大学どうしようと思ったときですね。中学の頃は成績が良くて、自分では頭が良いつもりでいたんですけど、高校に入ったらそうでもないぞと(笑)。全然、上がることがわかって、ちょっと挫折しました。大学をどうしようかと考えたとき、行ける大学が無いなあと思っていて、普通に大学へ行っても勉強もしないでダラダラ過ごすだけだろうなと思い、だったら思い切って芸大へ行っちゃおうかなと考えました。幸い両親は、「いいよ〜」とってくれました。でも授業料は高いし、内心、心配しているかと思いますが、せっかく大学に行かせてもらえるからには、しっかりやらなきゃと思っています。



『どこ行くの？』



『海光』



『僕は花屋さん』



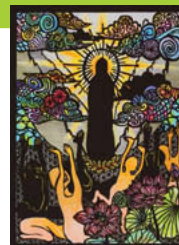
『道端の蜜』



『オシバナ』



『ほしと出会う夜』



『こくらく』



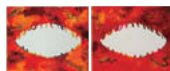
『めぐり』



『Hibiscus』



『四季』



『inSaid』



『Outsaid』



『遠くの子』



『水田』

ー切り絵をやり始めたのはいつ頃から？

一年生のときに、ファンデーションみたいな感じで、ガラスや陶芸など、一通りやりました。でも、その中から1つを決められなくて……。

ーえっ！ 全部ハズレなの。いまいちだったの(笑)

いえ、そんなことないですよ。全部、楽しかったんですけど、自分はデッサンが得意じゃなかったのでも絵を描いたりするのが苦手だという意識があったのですが、ファンデーションをやっていくうちに細かな作業が好きだとわかりました。好きというか、熱中してできるというか、それでやってみようかなと切り絵をはじめました。軽い気持ちで、今はこれが面白いからやっているという感じですね。ほかに、版画をやったり、縫い物を作ってみたり、いろいろなことをやっています。大学生のうちから、いいかなと思ってやっちゃってます。

ーそういえば、いろんなプロジェクトで頑張っていると聞いたけど……



2年続けて田んぼアートのデザインに採用。ほかにも多くのワークショップ、プロジェクトに参加。



プロジェクトがあれば何でもやってみようと思参加しています。北名古屋市の田んぼアートとか、今年はまだ見頃が過ぎちゃったんですけど、2年続けて参加しました。去年は、田んぼのデザイン、今年はず

ザインと、チラシ作りも担当しました。

ーすごい！ 2年続けて田んぼの絵になったの！

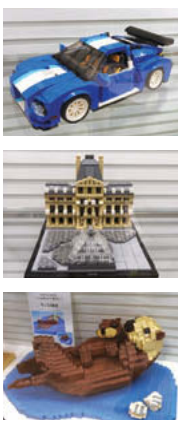
選んでいただいて(笑)。市役所の方たちと顔見知りになって、楽しくやらせていただきました。実際に稲を植えに行ったり、田んぼの準備も一緒にやったりしています。藻が大量発生しているから集まれとか、あそこが禿げているから植えなきゃとか、結構、手間がかかりますよ。私は、イラストを描いて、北名古屋市役所東庁舎の3階からうまく見えるように、パソコンで調整しました。奥が広がるように、輪郭線も手前が細くて奥は広げると、調整するんです。あとは、測量士の人たちがそのデータをもとに、測って杭を打ってビニール紐で輪郭を取って行って、そこに体験会で親子連れの方々が参加してガイドに沿って田植え、途中で手入れして夏になってきれいに絵ができあがります。

ー貴重な体験だね。市役所の人たちと一緒に仕事して……

そうですね。いろんな要望があってそれに合わせて考えたりして、デザイン会社に入ったらこんな感じなのかなと思いました。

ー将来は？

うーん、今、一番聞かれて困る質問ですね。作品を作っていけたらそれが一番なんですけど、現実的にどうなんだろうと。就職するんだったら3月から就活が始まるので。でも、就活するのかなあみたいな……。就職するにしても、美術と全然関係ないところには行きたくない、と思っています。



アートをもっと身近に テラッセ納屋橋に 「地域交流センター」を開設 誰でも気軽に触れられるアート

「ブロックアート教室」を 開講



納屋橋再開発に伴い新しく建設された大型複合施設「テラッセ納屋橋」に、「名古屋芸術大学地域交流センター」を開設し、レゴブロックを使った創作活動「ブロックアート教室」を開講しました。

ブロックアートはレゴなどブロックを使って行う創作活動で、芸術的な素養のない子どもからお年寄りまで、年齢や経験など関係なく誰でも気軽に創作活動を始められる芸術の一つです。日本では、まだまだ馴染みの薄いブロックアートですが、海外ではアートの1ジャンルとして認知されています。「地域交流センター」では、レゴを活用したブロックアート教室を開講し、誰もが気軽にアートに触れることのできる場を提供します。

「地域交流センター」には、ブロックアート教室などが開けるワークショップスペースと、創作活動に使えるフリースペース、さらに作品を展示できる展示スペース、本学レゴ



部のためのスペースなどを用意。あわせて、ブロックアート教室に参加できる一般会員（小学2年生以上の方々 月額12,000円（税込）、ブロックアート教室参加費込）、特別会員（月額5,000円（税込）自由に創作活動が可能）を募集しています。



地域交流センタースタッフ紹介：（左から）企画室長小久保、地域交流センター担当中村さん（本学美術学部卒業生）、高木さん、三井さん、企画室企画専門員濱田

アートを 切り口に 地域社会との 交流の場に



企画室長
小久保純一

絵を描くとなるとキャンパスが必要、絵の具が必要、道具がたくさん必要になるうえ、デッサンができなければいけないなど、基本的な技術が必要です。版画や彫刻やなどでもそうですが、誰か、先生なり、師匠に就いて技術を身につける必要があります。アートというところの部分で、ある程度の縛りがあるとしてもあります。でも、ブロックであれ

ば、誰でもすぐに始めることができます。アートの素養がなくても、子どもでも誰でもできます。本学の地域交流センターに来れば、準備も必要ありません。いつでも、すぐに始められます。

こうした簡単に取り組むことのできるブロックアートに親しむことで、アートに対する敷居が低くなるだろうと考えています。日本では、まだまだあまり認知されていないブロックアートですが、気軽にアートを楽しめる、自分も参加して創作することができる、それができる場を提供します。ブロックアートを入口に、さらに奥深いアートの世界へと関心を高めていく、そして、アートを切り口に地域社会との交流の場になっていければと考えています。



9月29日のオープニングセレモニーでは、音楽領域、フレスコプラスクインテットが登場。星に願いを、アース・ウィンド・アンド・ファイアー・メドレー、花は咲く、など演奏、セレモニーを大いに盛り上げました。



テラッセ納屋橋



堀川地区で進められた再開発ビル建設。1万1000平方メートルの敷地に、29階建ての高層マンション、商業施設、オフィスなど4棟からなる。「納屋橋」や橋のたもとに残る登録有形文化財「旧加藤商会ビル」の色合いやデザインが取り入れられ、周辺地域の街並みに馴染むように設計されている。本学「地域交流センター」は、A2棟 3階に開設された。

レゴ部

地域交流センターの開設に歩みを合わせて「レゴ部」も発足。「名古屋市土曜学習プログラム」などワークショップをお手伝い。芸大祭でブロックによる西キャンパスを制作します。



2017年度前期 交換留学生作品展が 行われました

2017年6月30日(金)から7月5日(木)まで、本学西キャンパスA&Dセンターのギャラリーで、本年度前期に来訪した交換留学生の作品展が開催されました。

本年度前期は、姉妹提携校イギリスのブライトン大学から2名、同じくイギリスのUCA芸術大学、ドイツのプレーメン芸術大学、イタリアのNABAから各1名、タイのスリナカリン・ウィロット大学から2名、韓国の慶南大学から1名、合計8名の女性の留学生が来学しました。彼女たちは担当教員の指導の下、それぞれのコースに所属して講義を受け、その成果物としての作品を制作、このたびの展覧

会となりました。

作品展の開催にあたり、初日の午後5時より同センターでオープニングレセプションが行われました。

国際交流センター事務室の内平早紀室員による司会で、はじめに、水内智英国際交流センター長の挨拶がありました。続いて、津田佳紀副学長が乾杯の音頭を発声し、レセプションがスタートしました。

その後、留学生一人ひとりが挨拶に立ち、本学に留学して感じた事や展覧作品のコンセプト、作品に込めた思いなどを語ってくれました。通訳を通して挨拶をした人がほとんどでしたが、中には、流暢な日本語を話せる留学生もいて、会場を取り囲んでいた参加者から大きな拍手を受けていました。

留学生を囲んで本学の学生や教職員がしばらくの懇談してレセプションを終りました。

作品展は、期間中大勢の来場者でにぎわっていました。



1 挨拶をする水内智英国際交流センター長(左端)。右は事務室の内平早紀室員と留学生たち

2 Panita Sathirasarinthさんの作品

3 Ju Yeon Jungさんの作品

4 Sijie Hongさんの作品

5 Aoife Bear Cassonさんの作品

6 Anastasia Manzonさんの作品

7 Vanessa Queckさんの作品

8 Nantapan Chinprapinpornさんの作品

9 Penelope Jullianさんの作品

News & ニュース&トピックス Topics

音楽領域

マルチェッラ・レアーレ先生の 声楽公開講座が行われました

2017年7月20日(木)、本学東キャンパス2号館の中アンサンブル室において、マルチェッラ・レアーレ先生の指導による声楽公開講座が開催されました。この公開講座は、芸術学部音楽領域声楽コースの主催によるもので、声楽コースの学生および院生が課題曲の演奏に関してレアーレ氏から直接指導を受ける内容が公開されたものです。講座の開始に先立ち、声楽コース教授の澤脇達晴より講師の紹介を兼ねた挨拶がありました。「マルチェッラ・レアーレ氏は、米国でイタリア人の両親の下に生まれ、15歳で『ラ・ボエーム』のミミ役でデビュー。その後世界の劇場で主役を務め、レパートリーは50作以上です。中でも、蝶々夫人とトスカは300回以上演じています。1970年、イタリアで最高のプッチーニ・オペラのプリマ・ドンナに贈られる「黄金のプッチーニ賞」をアメリカ人として初めて受賞。また、1991年には、「マリオ・デル・モナコ賞」を受賞。

1994年からは日本に定住して昭和音大、東京芸大、国立音大など各地の音楽大学で指導に当たるとともに、新国立劇場でもコーディネーターを務めるなど、日本のオペラ振興に多大な貢献をされています。言葉は五カ国語(英・伊・仏・独・露)を話されますが、なぜか日本語だけはあまりお話しされません。本日のレッスンはイタリア語と英語で行われ、通訳とピアノ伴奏は、本学卒業生の寺元智恵さんが担当しました。この後、早速レッスンに入りました。最初に、学生たちが自分の課題曲を一通り歌うところからスタートしました。歌い終わった後で、レアーレ先生が感想を述べるとともに講評をして、次からは、短い小節ごとに具体的に指導していくというスタイルで行われました。発声の仕方や歌い方の指導だけではなく、曲の内容を理解したうえで、その情景を想像して身体で表現する演技の指導も行われました。最初にレッスンを受けた梅村悠さん(2年生)のG.プッチーニ作曲の『ラ・ボエーム』より「私が町を歩くとき」では、歩き方や手の使い方など、細かいゼスチャーも指導されました。

このようにして、前半に2・3年生4名が、休憩を挟んで、後半は4年生と院生各2名が指導を受けました。



レッスンを受けた学生と院生・及び課題曲

- 梅村 悠(2年生)
歌劇<ラ・ボエーム>より「私が町を歩くとき」 G.プッチーニ
歌劇<トスカ>より「歌に生き、恋に生き」 G.プッチーニ
- 鈴木 まゆ(3年生)
歌劇<ドン・ジョバンニ>より「恋人よ、さあこの葉で」 W.A.モーツァルト
私の愛の日々 S.ドナウディ
- 山田 久瑠見(3年生)
歌劇<連隊の娘>より「さようなら」 G.ドニゼッティ
- 城山 由佳(3年生)
歌劇<ドン・ジョバンニ>より「ぶってよ、マゼット」 W.A.モーツァルト
- 星野 早紀(4年生)
歌劇<コジ・ファン・トゥッテ>より「女も15になったら」 W.A.モーツァルト
- 山本 みり(4年生)
歌劇<ラ・ボエーム>より「あなたの愛の呼ぶ声に」 G.プッチーニ
- 大坪 智子(大学院2年生)
歌劇<フィガロの結婚>より「楽しい日々はどこへ」 W.A.モーツァルト
- 早川 あみ(大学院2年生)
歌劇<コジ・ファン・トゥッテ>より「岩のように動かず」 W.A.モーツァルト
(Pf. 寺元智恵)

人間発達学部子ども発達学科と
芸術学部芸術教養領域の
オープンキャンパスが
行われました

2017年8月19日(土) 本学東キャンパスで、人間発達学部子ども発達学科および、芸術学部芸術教養領域リベラルアーツコースのオープンキャンパスが行われました。

人間発達学部全体の説明会場となった3号館音楽講堂ホールでは、説明会の開始に先立ち、入場した参加者たちに向けてウェルカム演奏が行われました。演奏したのはいずれも同じキャンパスに在席する音楽領域の学生で、最初にパイプオルガンの演奏、続いて電子オルガン演奏、そして、ミュージカルコースの学生3名による「ミュージカルハイライト」としての歌とダンスが披露されました。総合芸術大学ならではの趣向を凝らしたウェルカムサービスに参加者からは大きな拍手が送られていました。

全体説明会は、まず、星野英五学部長の挨拶で始まりました。学部長からは、人間発達学部が2018年度から新たなスタートを迎えること。すなわち、1年次は子どもファンデーションが導入され、学科の基礎的内容を幅広く学び、2年次からは4つのコース制(選択)となることなどが説明されました。そして、芸術総合大学だからできる「感性豊かな保育者・教育者を育てる」指導方針と

決意が表明されました。

続いて、安部孝学科長から、学部の歴史から教員採用試験の実績まで広範な内容について、重要なポイントが解説されました。人間発達学部は、名古屋自由学院短期大学の保育科・児童教育科を継承したものであり、50年を超える歴史と伝統を有していること。そして、アドミッション・ディプロマ・カリキュラムのポリシーについて。学生に求められる資質や人間性。4年間の流れと過ごし方。4つのコース制や芸術学部との連携。入学試験の概要や特定クラブ活動についてなど、詳しい説明がありました。

この後は、「卒業生からのアドバイス」として同窓会会長の菅野謙一氏が、ご自身の経験から『名芸人間発達学部の良い点』について話をされました。そして、在学生への質問コーナーや、この後のオープンキャンパス予定などが広報されて全体会を終了しました。全体会終了後は、自由参加形式で各種のイベントが、昼食を挟んで1時間半のサイクルで2回に亘って行われました。

今回行われたイベントは、1号館2階で「モンテッソーリ教育とは」(教員による講義と教具自由体験)、「赤ちゃんの世界ようこそ」(11号館1階の子どもコミュニティセンターでの自由体験)、「ピアノ特別レッスン」(2号館2階203・204の2教室)、「すべてが分かる相談コーナー」(2号館1階



1モンテッソーリ教育の体験
2受付に多くの高校生たちが並び手続きを済ませました
3ウェルカム演奏(電子オルガン)
4芸術教養領域「オリジナル缶バッジ作り」
5ピアノ特別レッスン
6ワークショップ(美術教育)
7サークル発表(ダンスサークル)

において教員と職員によるなんでも相談コーナーを開設)、「ワークショップ美術教育」(教員による動物の絵作りや折り紙の作り方指導)、「ワークショップ情報機器」(教員によるプログラミング演習)いずれも1号館の5階の教室、そして、1号館1階の受付の傍では、「夏祭り縁日コーナー」として、「スーパーボールすくい」が、また、キャンパスの東側にある附属クリエ幼稚園見学も行われました。キャンパス内の各施設を見て回る大学見学ツアーは4回に亘って行われました。

イベント終了後、午後3時から8号館2階の体育館で、「ダンスサークル」の発表会がありました。軽快な音楽に合わせてダンスを披

露する学生たちに思わず見とれてしまいました。また、在学生との交流イベント(チーム対抗競争)もこの会場で行われました。

一方、芸術教養領域リベラルアーツコースでは、「何者にもなれる君へ」と題して、進学・受験・大学生活相談コーナーや、「ヴィジュアルバッジ」作り(自分で撮った写真を使って、自分だけのオリジナル缶バッジを作る)や、「上空から見る世界」(ドローンを使っていつもと違う風景を楽しみ、見る高度や角度の重要性を学ぶ)などが行われました。相談コーナーや缶バッジ作りが行われた3号館横のLACリテラシー&アーツセンターは、終日にぎわいを見せていました。

デザイン領域

清須市立図書館×
麒麟ビール名古屋工場×
名古屋芸術大学
官民学のコラボレーション
「日本一ビールに詳しくなる
ための図書コーナー」が
開設されました

2017年7月6日(木)、愛知県清須市春日の清須市立図書館において、「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」の開設を記念した式典が行われました。

今回の取り組みは、市民参加型の図書館となるような企画を提案している清須市立図書館と、この地で55年にわたり操業を続け「ぜひ一緒にこの地を盛り上げたい」という麒麟ビール名古屋工場の想いが一致し、その製品である「ビール」に焦点を当てたユニークな図書コーナーを開設することで、図書館の利用拡大と地域

の活性化を目指したものです。この取り組みが進む中で、「図書コーナーのメインとなる目立つ棚がほしい。地域の学生にこのコーナーの棚をデザインしてもらってはどうか」というアイデアが出され、本学デザイン学部スペースデザインコースの学生たちが参画することになり、官民学のコラボレーションにより「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」が開設される運びとなりました。

新しい図書コーナーに設置された本棚は、ビールをイメージしたユニークなデザインで、本学デザイン学部スペースデザインコースの内田克憲さんと加藤友浩さん(二人とも2017年3月卒業)が考案し、図書館利用者の前でプレゼンテーションを行い、そのコンペで1位となったデザインです。この本棚は約2,000冊の本の収蔵が可能で、現在は、ビールの製造工



1テープカットをする式典出席者(左は本学の竹本学長)
2式典で本棚が出来上がるまでの経緯や、制作の苦労話などを説明する本学の駒井貞治デザイン領域主任
3模型を見せながらデザインのコンセプトなどを説明する本学デザイン学部卒業生の内田克憲さん(右)と加藤友浩さん
4「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」に設置されたビールをイメージした本棚
5本棚に収蔵されている図書
6図書コーナーの中にあるビールの製造工程や名古屋工場の製造品種など

程、歴史から文化に至るまで、専門書・漫画を問わず、ビールに関する様々な書籍約400冊が収蔵されています。

記念式典では、清須市立図書館長の野田嘉一氏と清州市長の加藤

静治氏による挨拶があり、そして、麒麟ビール(株)執行役員名古屋工場長の石島寿也氏と本学芸術学部デザイン領域主任の駒井貞治が、挨拶を兼ねて図書コーナー設立の主旨や本棚が出来上がるまでの経

緯などについて話をしました。続いて、書架デザイン・製作者からの説明として、本学デザイン学部卒業生の内田克憲さんと加藤友浩さんが模型を見せながら、デザインのコンセプトや本棚の機能、苦

心した点などを説明しました。

この後は、出席者全員が図書コーナーへ移動して、「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」の除幕式と式典主賓によるテープカットが行われました。

本学からは竹本義明学長が臨席し、テープカットを行いました。

この後は、図書コーナーの内覧が行われ、大勢のマスコミ関係者や図書館関係者で賑わいを見せていました。

清須市立図書館とキリンビール名古屋工場は、「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」の開設を記念して、7月7日(金)～8月30日(休)まで「オープニング記念スタンプラリー」を実施しました。

デザイン領域

デザイン領域特別客員教授 木村徹氏によるワークショップ 「IDOU」&公開講座「クルマは 変わる」を開催しました

2017年8月5日(土)、デザイン領域特別客員教授 木村徹氏によるインダストリアルデザインワークショップ「IDOU」の講評会、および、公開講座「クルマは変わる」を開催しました。

ワークショップの「IDOU」は、カーデザイン、インダストリアルデザインを学ぶ名古屋芸術大学と中部地区の大学生を対象に開催されたワークショップで、10年後に自分が使いたい移動のための道具をデザインする、という内容で8月2日～5日に行われました。事前に申し込んだ30名が5つのグループに分かれて、未来の移動のための道具・乗り物を考えてディスカッションを行い、スケッチやモックアップを作ることで考えを視覚化しました。5日の午前中は、X棟ギャラリーにスケッチとモックアップを展示し、グループごとにプレゼンテーションを行いました。10時の開始時間直前まで、展示を微調整したりモックアップを仕上げたりする学生の姿が見られ、短期間のワークショップならではの、密度の高さを感じました。プレゼンテーションは、グループごとに20分程度の発表を行い、質疑応答の後、木村氏が講評する形式で進められました。いずれのグループも、現在の技術をベースに10年後に発展するであろう技

術を用い、現在の社会が抱える問題や課題を解決しようとする内容になっており、最大限、発想を広げたものとなりました。ユニークなアイデアや非常に大規模なインフラを整える大胆な仕組みなどの提案があり、見応えのある内容になりました。2日半という短時間のワークショップにもかかわらず、多数のスケッチ、実物サイズをイメージできるモックアップなど、力作が揃いました。木村氏は、終始にこやかに発表を聞き、豊かな発想力を高く評価するコメントをしました。参加者たちは、いずれも木村氏から薫陶を受け、晴れやかな表情を浮かべていました。木村氏は、短時間でもフルスケールでモックアップまで制作できたことは大きな意義があり、このように濃厚な時間を過ごすこと自体が今後の大きな糧になること、「移動」することは人間の本能であり、移動するという行為の意味をしっかり捉えて欲しいということ、デザイナーにとっては夢を見ることが非常に大事であり、夢の見方を覚えて欲しい、と講評会をまとめました。また、デザインという仕事は、ストーリーを作り、夢を見てそれを形にするシンプルで楽しい仕事であり、夢を見ることがもっとも重要であると学生たちに伝えました。

午後からは、B棟大教室に場所を移し、公開講座「クルマは変わる」となりました。会場には、ワークショップに参加した学生、一般の学生に加え、自動車メーカーに勤める現役のデザイナーな



1 ワークショップ「IDOU」。アイデアを尊重し考えを育むことを重視する木村氏。温かなまなざし

2 5つのグループに分かれ、10年後の移動の道具を考察しプレゼンテーション。フルスケールのモックアップも作製

3 X棟ギャラリーには、カーデザインコース1年間の成果として学生たちが制作したスケッチやモックアップも展示

4 公開講座「クルマは変わる」。資料を使いながらデザインするときに考えることを確認

5 懇親会にて、ワークショップに参加した学生たちもリラックスした様子



ど社会人も数多く来場しました。

最初に、カーデザインコースを担当する片岡教授から、カーデザインコースの概要と木村氏の紹介がありました。木村氏は、トヨタ自動車株式会社退職後、名古屋工業大学、川崎重工で重責を担ったという経歴の説明に加え、もっとも重要なこととして、公益社団法人自動車技術会にデザイン部門委員会を設立し、すべての自動車メーカーのデザイナーがつながることのできる組織を作ったと、その業績を称えました。現在も、学生や子どもたちに自動車のデザインがいかに大事なことであるかを伝える活動が続けていると紹介しました。

講演は、若い人たちに明日を考えて次世代の車がどうあるべきかを考えて欲しい、ということから

始まりました。現在では、自動車産業は成熟産業と考えられており自動車はコモディティ化していきと言われてはいますが、そんなことはなく、エネルギーの転換期にきており自動車自体が大きく変わる時期であり、デザイナーとしてもやるべきことがたくさんあると説明しました。デザインの原点として、学生に「デザインとは何か?」という問いかけをし、孔子の論語「其れ恕(じょ)か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」を引いて、デザインは「恕=思いやり」と説明しました。レイモンド・ローウィ「Most Advanced Yet Acceptable (もっとも先進的で且つ消費者に受け入れられる)」 ミース・ファンデル・ローエ「Less is more (神は細部に宿る)」 ルイス・サリヴァン「Form follows function (形

Column NUA No.38

翻訳雑感

デザイン領域教授 橋本裕明

あの聖書のウルガタ訳という偉業を成し遂げたヒエロニムスでさえ誤訳した。だからヴァチカンではモーセは二本の角を生やす羽目になった。くだんの民族指導者は十戒の石板を神から受けて山を下ってきたときに「顔の肌が光を放って」(ヘブライ語)いたのを「角を生やして」(ラテン語)と訳したのだ。これはある意味でクレオパトラの鼻の高さと同じほど世界史に影響を及ぼした事実だが、われわれ翻訳を手がける機会の

多い外国語教員にとっても誤訳はけっして他人事ではない。いつも読み間違いにおびやかされているのだ。

かつて十年かけて、中世後期の十四世紀ドイツで卓越した精神的指導者であったドミニコ会神父、タウラーの約百編の説教を翻訳し、出版したことがあった。その中世高地ドイツ語写本には'mensch'(人間)という語があったが、コンテキストからはそうは読まず、結局それをラテン語の'mens'(精神)の誤記と判断し、訳すことにした。もちろんそうした理由は注に記述しておいた。これは四・五十分ほどの説教を担当の修道女が記憶して、自室に戻ったあとに思い出しつつ文字化したものだが、おそらく彼女の脳が自然に修正した

のだと推定される。ただし絶対にそうだと言い切ることはできない。あくまでも当方の解釈である。この手のテキストにはこういう事例はつきもので、半永久的に訳文が残る責任を感じて、訳者はひどく悩まされることとなる。

また少し前のことだが、ヘルマン・ヘッセの新全集(未発見の資料を収録した)の邦訳の企画がなされたとき、訳者の一人としてこの大事業に参加した。そもそも文学作品の場合は、哲学的な論理的文章とはちがう対応が要求されるため、発想を切りかえなければならぬ。ゲーテの戯曲『ファウスト』の韻文の豊穡なイメージ世界を表現するには、ドイツ語の語感のすべて

態は機能に従う)」レクサスデザインフィロソフィー「Simplicity is not simple(簡潔であることは簡単ではない)」アルフレッド・マーシャル「Cool heads but warm hearts(冷静な頭脳、暖かい心情)」などの言葉の意味を確認し、デザイナーが考えるべきことの要点を明らかにしていきました。内容は徐々に実践的な事柄に移り、デザイナーが考えるべき「5W2H(When, Where, Who, What, Why, How, How much)」について、「2W1H(What, Why, How)」と「3W1H」に分け、2W1Hの「テーマは何か」「テーマの理由」、この2つがプロジェクトにもっとも重要な事柄であることを説明し、Howに関してはそれぞれの企業や組織で条件が異なり、どうやって実行

するかが仕事の難しさでありポイントになると説明しました。

さらに、自動車の開発史を紐解き、ガソリン自動車の誕生→高級車の思想形成→大衆化・巨大化(快適性の追求)→エコ化(持続性の追求)と歴史を捉え、この流れで自動車開発は動いており、自分が自動車に携わるときに意識して欲しいと話しました。

自動車以外の分野の工業製品としてオーディオ、時計、掃除機を例に挙げて、今後の市場動向は高級品と実用品の2極化がさらに進むと説明、それを踏まえ、あるべき姿として未来の行き先を考え、自分が携わる商品の落としどころを探ることが肝要と説明しました。

新たなモビリティとして、走っているときと止まっているとき、

それぞれに合わせて変化する形状、また、それぞれが連携してつながることのできるPCM(パーソナル・コミュニケーション・モビリティ)の概念を提案し、トヨタ自動車や川崎重工で手がけた乗り物と自身が提案したPCMとの関連を紹介して講演は終わりました。

質疑では、製品のデザインに過去の製品・オーソドックスなデザインを取り入れることについての疑問、プロダクトの2極化についてオートバイの場合はどうなるのか、などの質問が上がりました。オーソドックスなデザインについては、オーソドックスとは何を基準にしているかそのこと自体に疑問を持ってもらいたい、さらに、どんな商品であれ「驚き、慣れ、飽き」のプロセスを辿ると考えて

おり、周期の違いがあるだけで自動車も建築もファッションも同じプロセスを辿るので、自分の位置を客観的に判断することが大切だと応えました。オートバイ市場の動向としては、専門化が進み、中途半端な製品は消えていくと考えを説明し、その上で、日本の企業は実用品を作ることは得意だが高級品を作ることが苦手、新たな価値を作っていくことが今後望まれていると応えました。

公開講座終了後、X棟2階で懇親会が開かれました。ワークショップに参加した学生たちは、緊張が解けてリラックスした様子。講座に出席した社会人らも木村氏や本学講師たち、学生たちと和やかに談笑し、非常に有意義な懇親会となりました。

名古屋芸大グループ校特集

名古屋音楽学校

名古屋音楽学校は2017年度より竹本義明新学長就任による新体制がスタートしました。本校(名古屋市中区新栄町、スカイオアシス栄)と中日文化センター音楽教室(名古屋市中区栄、中日ビル内)合わせて約1300名の生徒が在籍し180名の講師が指導にあっております。

中日ビルの建て替えによる閉館(2019年3月予定)が発表されたことにより、中日文化センター音楽教室のポピュラー科在籍生は2017年7月より近隣のコートダジュール広小路栄店へ、クラシック科在籍生は2017年10月より本校に会場を移してレッスンを受けていただく事となりました。

当校では、通常レッスンの他に様々な事業を展開しております。

4月には愛知県芸術劇場コンサートホールにて、第85回日本

音楽コンクール受賞記念演奏会を毎日新聞社とセントラル愛知交響楽団との共催で開催いたしました。

このコンクールは日本でもっとも権威のあるコンクールであり若手音楽家の登竜門となっています。当日は松尾葉子先生(1968年~1971年に名古屋音楽学校で研鑽)指揮の下、セントラル愛知交響楽団の伴奏によりヴァイオリン・声楽・フルート・ピアノの各部門で優勝した4名のソリストを迎え素晴らしい演奏をご披露いただきました。会場には1000名を超えるお客様に会場いただき盛会の内に終演いたしました。

来年度は2018年4月24日(火)に日本特殊陶業市民会館ビレッジホールで開催を予定しております。

6月にはパリ・エコール・ノルマル音楽院ディプロマ試験が行われました。パリ・エコール・ノルマル音楽院の日本唯一の公認提携機関である名古屋音楽学校より、中沖玲子先生(パリ・エコール・ノルマル音楽院教授・名古屋芸術

大学教授)に師事している11名が渡仏し試験に臨みました。見事に合格した7名(1名棄権)の中でも4段階の試験に臨んだ名古屋芸術大学1学年に在学中の浅野佑佳さんは、審査員特別称賛賞・審査員満場一致という優秀な成績で合格いたしました。

8月にはダルクローズ・リトミック夏期セミナー2017を開催いたしました。このセミナーは春期と夏期の年2回開催しており、日本ジャック=ダルクローズ協会が発行する国際免許取得を目指す方々に向けた内容となっております。今回は特別に打楽器奏者・指導者

である杉山智恵子先生を講師としてお迎えして、リトミックでよく使用される打楽器奏法等を学ぶ講座も合わせて開催いたしました。今回は2018年3月29日から4月1日にかけて、海外より講師を招聘しての開催を予定しております。

最後に、2018年は名古屋音楽学校創立70周年を迎えます。これまで多くの皆様に支えられてきたことに感謝しながら、更なる発展を遂げるよう一層の努力を重ねてまいります。

これからも皆様より一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



1 第85回日本音楽コンクール受賞記念演奏会

2 試験に合格した浅野佑佳さんと大野有咲さん(名芸大在学中)

3 ダルクローズ・リトミック夏期セミナー



を働かせて原文の世界に入り込み、それを日本語の感性で受けとめねばならないが、それはヘッセの場合も同じであった。Dudenなど独辞典を引いても出てこない意味表現に到達しなければならぬのである。

さて、割当てられたヘッセの数十の短編を何ヶ月もかけてほぼ訳し終え、最後の作品に取りかかったとき、茫然自失した。全集はとにかく全作品を訳出することが前提であるが一さもなければ訳出全集たりえない一、その「ラリった」最後の一篇は訳しようがなかったのだ。その「Evi」をほとんど全ての名詞の接頭辞とするやり口は、当然無意味で遊びめいたものと読めるが、ヘッセ自身の不安定だった精神状態を反映しているよ

うであった。「明白=Evidenz」「ぐっすり=Evipanz」「エヴィ・パニック=Evipanik」「エヴィパン錠=Evipan」「エヴィ蠟人形館=Evipanoptikum」「エヴィ汎神論=Evipantheismus」「エヴィ・パンクラーツ=Evipankraz」「エヴィ・パンドーラ缶=Evipandora」「エヴィ失敗=Evipanne」「エヴィパナマ=Evipanama」「エヴィ豹=Evipanther」と陸続と現れる。個人では訳出はお手上げて、結局は複数の訳者が鳩首して、訳稿を作ることになったのだが、内容は最後まで意味不明で、これに関しては全く自信がもてなかった。ひそかに読めないことを祈っている始末である。

現在「新約聖書」の個人訳(キリスト教会に阿ない

のを矜恃とする)を続けている人物に、田川建三がいる。すぐれたギリシア語能力を基礎としたテキストの鋭い批判的読みと学界の権威者の解釈を歯に衣を着せぬ物言いで論難するその大部の注で有名であるが、その彼は、古典的テキストは意識ではなく、直訳すべきであるとする立場である。そもそも意識は往々にして訳者の思い込みによる解釈を含んでいることが多く、原文テキストの主張を歪めてしまうことがままある。私も長い年月、さまざまな古典的文献を翻訳してきた経験から、テキストをしてテキストに語らせるという意味で、精確で厳密な直訳こそが学問的貢献の第一だと考えている。

「僕は、30年くらい大学で
教えています。どうして
こんなに長く続けられた
のかを考えてみると、教え
られていたんですね」



マスター ↑↓to アーティスト 【第38回】 〈生き方、描き方〉



「日本画だけ勉強して
いても日本画はわから
ない」アトリエには、洋
画、立体、写真、流木、
昔の道具……。さまざ
まなものが並ぶ。領域
を超えて興味が広がる

市野鷹生

(いちの たかお)

大学院美術研究科
美術専攻
美術領域 日本画コース
教授

1947年 愛知県生まれ
1968年 武蔵野美術大学日本画科 中途退学
1972年 日本美術院展入選
以降、日展 東海展 中日賞受賞
日展 特選受賞
日春展 日春賞受賞
日春展 奨励賞受賞
第7回 石田財団芸術奨励賞受賞

嶋谷自然、高山辰雄に師事
父親 市野亨、兄 市野龍起
嶋谷自然は義父にあたる



う。絵描きになりたい、
美術の道に進みたい、と
いったことを意識するこ
とはなかったそうだが、
高校は美術科に進んだ。
画家とともに生活する少
年にとっては、ごく当た
り前の選択だったのだろ
う。さぞや英才教育が施



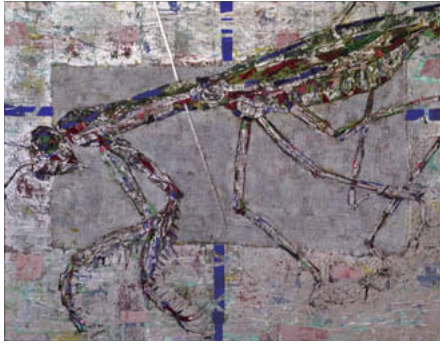
高校時代のスケッチ(左)と大
学1年の骨描き
(下書きの意、右)

父である亨、川端龍子、高山辰雄……いず
れの画家も死の間際まで絵を、門弟の画家
たちをおさなりにすることはなかったとい
う。画家たちは激しく生きた。その激しい
生を少年は見ていた。高校時代のスケッチ
が開かれる。捨てられずに残しているとい
う。「夏休みに毎日東山動物園に通って3種
類くらいの動物を、なんとかマスターした
いと思って描き続けたんですよ。そこまで
すると動物でも植物でもようやく何かを見
せてくれる」と先生に聞きましてね。休み
明けに学校へ持って行って見てもらいまし
た。『頑張ったな。いいなあ、これ』とい
ってくれましてね。その一言で苦労が吹き飛
びましたよ 自分がそこまでできた、やり
きったんだという経験が、自分のことを支
えてくれると話した。当時のデッサンを今
も大切にしている理由がよくわかる。

2階のアトリエを見せていただいた。た
くさんのガラス瓶。色とりどりの岩絵の具
たちである。「行き場をなくした絵の具や画
材がね、私のところに集まってくるんです
よ。不思議なもので、良い絵の具ばかり残っ
ちゃう。順繰りで、私のところに来て、ま
た、どこかへいくんでしょう……」

父上は、画家である市野亨。日本画開拓
を唱え洋画から日本画に転向した川端龍子
に師事し、龍子が創設した青竜社を支えた
画家である。幼い頃から、川端龍子と父親、
そして彼らの下で画家となった兄 市野龍起
と、間近に画家たちの生き方を見て育った。
美術の世界に生を受けた、とっていいほ
どの環境で少年時代を過ごしたといえよ

されたのでは、と考えてしまうが、全くの
逆だったという。「私は6人兄弟の三男で
す。長男と私が絵の道に進みました。兄は
父親に厳しくされてました。親父とよく似
た絵を描いていて、性格もよく似ていまし
た。私の場合は、美術学校へ行けどとか、
絵を描けなんていわれることは一切なく育
てられました。戦争が終わって、まかり間
違えば戦死していたかもしれないという
ところで帰って来られて、私が生まれました。
それで自由にされたのかなど。ありがたく
思います。制約なしで育てられた自分が、
子供や学生に対してああだこうだなんてい
える立場じゃありませんよ」ならば奔放、
放任かといえば、そうではない。画家とし
て生きる責任や苦しさも肌で感じてきた。



【死んだカマキリ】2016年
F50号 麻紙 岩絵具



【2羽のカラス】
F30号 麻紙 岩絵具



中学時代の水彩画。当時の自宅周辺の風景や、静物などを描いた



「近頃は、技法重視になりすぎているように感じています。私も近現代日本画表現という講義をやっていますが、技法の本質は技法じゃないんですよ。技法とは生き方であって、どんな生き方をしたかが技法なんです。手の技術は何年もやっていたら、誰でも身に付きます。でも、そんなものじゃないですよ。作品を見習うんじゃないですよ。作品を見習うんじゃないですよ。作品を見習うんじゃないですよ。その人がどういう生き方をしたか、生き方の技法を見なければいけません」柔らかな物腰と穏やかな話し方だが、発せられる言葉は鮮烈だ。芸術はもっと社会に出て役割を果たすべきである、とりわけ商業との関係をもっと考えるべきである、といった考え方が今日では大きくなりつつある。その考えに理解をしつつも、その在り方に警鐘を鳴らす。「早く売れっ子になるとか脚光を浴びるとか、大事なことはあるんですが、それでは輝きが弱いんです



【朝】1983年
P60号 麻紙 岩絵具



【朝の食卓】2000年
P60号 麻紙 岩絵具



【カラス】2000年
F20号 麻紙 岩絵具

よ。数年間話題になったとしても、続かない。美術の道を選んだのであればそんなことに照準を合わせるのではなく、その向こう側にあるもの、巨匠たちがどこを見ていたのかを知って欲しいんです」 自戒を込めて絵画の在り方について自問し続ける。目先だけに狙いを合わせ綺麗な絵ばかりを描いていると寿命が短い。命を燃やし創作に打ち込んできた画家を幼い頃から見てきた人の言葉だけに、とりわけ重い。

どれだけ気持ちを注ぎ込んだか、どんな生き方をしているか、その成果が作品である。そう教えられると、既存の絵も異なって見えてくる。人を知り、作家を知るほどに、絵は異なった魅力を見せる。「親父と兄の絵を整理するため、美術館の人に來てもらいました。私も、倉庫に入れてもらったりましたが、いろんなことを感じました」 所謂、美術品としての評価というもの、じつは狭い範囲の評価でしかないのではないかと。美術や芸術は、もっともっと広く大きな世界なのではないか。話す言葉と作品から伝わってくるのは、芸術の広大さとそこへ向

かう人間の姿勢である。

「学生にはね、なんとか絵を好きになって欲しいんです。そしてすごい世界があるんだと知って欲しい。今の社会情勢では、特に女性はいろいろなハンディキャップがあります。仕事、結婚、出産……、男性とは、就職から違います。ものすごくいい絵を描いている学生でも、そこで創作が途切れてしまうことがあります。もったいないと思いますが、決して無駄ではありません。絵で頑張れた人は、他ごとでも必ずその経験が支えてくれるはずですよ。気障ない方かもしれませんが、いい人生が送れるはずですよ」 創作の苦悩と痛みをよく知っている画家は、創作に打ち込む人間に対しどこまでも温かく優しい。

アトリエの岩絵の具たちは、さまざまな画家の傍らにあったものである。創作に打ち込む画家の専心と苦悩を受け止めてきた絵の具たちが、この場所に集まってくるのも必然に思えて来た。本当の傑作は誰かの評価に頼って成り立つものではない。思いの込められた作品は、岩絵の具とともに世を漂い続けるものなのかもしれない。

「みんなが芸大生になる日 一日芸大生」を開催しました



夏休みの恒例行事「一日芸大生」を、2017年7月30日(日)に開催しました。一日芸大生は、小学生、中学生、一般の方々を西キャンパスに招き、体験講座を通してキャンパスライフを体験していただく催しです。美術領域、デザイン領域、それぞれの各コースが趣向を凝らした13の講座が開講されました。

10時からの入場式は、美術領域はB棟大講義室、デザイン領域はG棟207教室で行われました。始めにそれぞれの領域主任から挨拶がありました。引き続き、各講座の担当講師とチューターの紹介、スケジュールの説明が行われ、受講会場へと参加者を送り出しました。参加者は、教室に移動すると、担当講師からテーマや制作工程などの説明を受け、制作に取りかかりました。

午後からは保護者の皆さんを対象にした見学ツアーが開催され、担当講師による大学の説明や制作現場の見学が行われました。暑い中の移動となりましたが、講師の話に熱心に耳を傾けたり、教室の隅に置いてある学生たちの作品に感心する姿が見受けられました。

午後の授業になると制作にも慣れてきて、参加者たちは一層集中して制作に没頭していました。洋画コースを見学する保護者の方からは「こんなに子どもが集中して絵を描くのは初めて。集中して取り組むことができ良い体験になったと思います。参加して良かったです」といった声が聞かれました。

授業の終了後には、この日制作した作品を持ち寄り卒業式が行われました。それぞれ、作品を大切に手にしている姿が印象的でした。各コースからの実施報告の後、講師から参加者全員に卒業証書が手渡され一日芸大生は終了となりました。一日芸大生は、来年も開催の予定です。ぜひご参加下さい。



- 1 洋画コース「絵画」
- 2 日本画コース「透かし絵」
- 3 アートクリエイターコース「陶芸」[陶芸]
- 4 インダストリアルデザインコース「プロダクトデザイン入門」
- 5 スペースデザインコース「イスのデザインと制作」
- 6 メディアデザインコース「アニメーション制作」
- 7 アートクリエイターコース「ガラス」[ガラスアート]



2017年度オープンキャンパス日程

2017年

■ 10月29日(日) 10:00~16:00 ミニオープンキャンパス 全学部 ※芸大祭と同時開催

■ 12月23日(日) 10:00~16:00 芸術教養領域

2018年

■ 2月25日(日) 10:00~16:00 ミニオープンキャンパス 美術領域 デザイン領域 ※卒業制作展と同時開催

■ 3月3日(日) 10:00~16:00 音楽領域 芸術教養領域 人間発達学部



表紙の写真

7月22日(土)に行われた声優アクティングコース説明会&アフレコ体験会の様子。本番さながら、真剣な表情で指導する声優アクティングコースの平光琢也教授。爽りの多い一日となった

「名古屋芸大 グループ通信 ウェブサイト」



2017年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)

11月	オーケストラ第35回定期演奏会 指揮/高谷 光信 日時/2017年11月5日(日) 15:00開演 会場/豊田市コンサートホール 入場料/一般500円・大学生以下無料	ピアノのしらべ 第22回 春のコンサート 日時/2018年2月22日(木) 17:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)
	名古屋芸術大学第40回定期演奏会 日時/2017年11月16日(木) 18:00開演 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)	オペラ公演 喜歌劇「こうもり」 日時/2018年2月24日(土)・25日(日) 15:00開演 会場/西文化小劇場 入場料/未定
	室内楽の夕べ 2017 日時/2017年11月28日(火) 17:30開演 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)	3月
12月	室内楽の夕べ 2017 (大編成の部) 日時/2017年12月5日(火) 18:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 3号館ホール 入場料/無料(全自由席)	第20回大学院音楽研究科修了演奏会 日時/2018年3月2日(金) 17:00開演 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)
	Earth Echo 電子オルガン第20回定期演奏会 日時/2017年12月7日(木) 18:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	第45回卒業演奏会 日時/2018年3月8日(木) 17:00開演 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)
2月	第16回 歌曲の夕べ 日時/2018年2月1日(木) 18:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	ジャズポップスコース卒業演奏会 日時/2018年3月10日(土) 15:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 3号館ホール 入場料/無料(全自由席)
	研究生修了演奏会 日時/2018年2月8日(木) 17:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	ミュージカル公演 日時/2018年3月15日(木) 18:00開演 会場/アートピアホール(ナディアパーク11F) 入場料/未定
	大学院音楽研究科特別演奏会 日時/2018年2月10日(土) 14:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 3号館ホール 入場料/無料(全自由席)	※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。 お問合せ先/名古屋芸術大学音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141
	Kaleidoscope 2018 日時/2018年2月17日(土) 16:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 2号館 3F 入場料/無料(全自由席)	チケット取り扱い場所 ●名古屋芸術大学音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141 ●名古屋音楽学校 Tel. 052-973-3456 ●愛知芸術文化センター-B2Fプレイガイド Tel. 052-972-0430 ●ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド Tel. 052-201-5152 ●カワイ名古屋 Tel. 052-962-3939 ※一部取り扱いのない公演がございます。

2017年度展覧会スケジュール(予定)

10/28(土)~11/8(水)	2017年度アート&デザインセンター企画展 GROOVISIONS NUA
11/10(金)~11/15(水)	アーツラジオ2017 洋画2コース3年生展
11/17(金)~11/22(水)	幼稚園児たちのゲイジツ2017 Hand Hospiece 医療と美術 2017展
11/24(金)~11/29(水)	MCD Department 2017
12/1(金)~12/6(水)	メディアデザインコース展
12/8(金)~12/13(水)	洋画コース2年生2コース 展覧会
12/15(金)~12/20(水)	こどもの空間 絵本と家具 2017年度後期留学生作品展
1/5(金)~1/10(水)	ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)
1/12(金)~1/17(水)	日本画3年コース展 緑の写真展
1/19(金)~1/24(水)	K-109展; 版画研究室開設30周年展 Academic Melting Pot™ ソンミティ™



※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
(入場無料)どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先/(0568) 24-0325
Open/12:15~18:00(最終日は17:00まで)
日曜休館

発行:名古屋芸術大学
企画・編集:全学広報誌編集委員会
デザイン・協力:くまな工房一社
印刷:株クイックス
発行日:2017年10月26日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市西庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan University
Association Accredited
UNIVERSITY
ACCREDITED
2011.4~2018.3

大学基準協会の認証評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認証評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したこととなります。